

黒川幸雄・佐藤成登志・大西秀明／編集

理学療法士のための 6 ステップ式 臨床動作分析マニュアル

川村博文

(神奈川県立保健福祉大学理学療法学専攻教授)

臨床動作分析手法は、日本に理学療法士が 1966 年に誕生して以来、いかに理学療法の臨床場面で役に立つ動作分析を行うかに関して長く論議されつつも、整理されず、混沌としてきた重要な評価手段である。臨床動作分析手法を確立するために多くの先人が、観察、静止画・動画撮影に基づく分析、二次元・三次元動作解析装置に基づく分析などを行い、創意・工夫してきた経緯がある。

本書は、この臨床動作分析の歴史と現状を理解した著者らの長い臨床経験と、新人理学療法士当時に気づいていた初心者に必要なポイントの導入を行うなど鋭い視点に基づき書き上げられている。また、臨床実習を経験した学生の意見に着目し、それらが随所に盛り込まれ、臨床場面で十二分に役に立つように臨場感のある構成となっている。さらに、臨床動作分析には不可欠な観察力、洞察力を高めることと実践的に治療を行うことを重んじた内容は、読者には頼もしい教科書になるものと思われる。

本書の対象は臨床実習生、新人の理学療法士、姿勢動作分析ポイントを若干理解していない理学療法士、

医療・保健・福祉従事者である。基本に忠実で、さらに実践的な動作分析能力を高める手法を解説した卓越した書である。

学習ステップは 6 ステップ式であり、段階的に積み重ね効果が期待できるように構成されている。病態の把握、観察能力、ICF(International Classification of Functioning, Disability and Health: 2001)の概念に基づく問題点抽出、問題点の統合を行うための関連付け、代表的な治療方法の抽出などの段階的で細やかに工夫された臨床動作分析の過程が学習できるようになっている。第 I 章では、臨床動作分析を行うにあたっての捉えかたと流れを解説し、第 II 章では、日常診療で治療する頻度の高い 16 疾患を取り上げ、疾患・障害別に段階的な臨床動作分析手法を詳細に解説している。第 III 章では、解析機器を用いた動作分析の意義、原理、具体的な留意事項を述べており、工学的解析手法をどのように捉え、臨床に応用するかを学習する上で重要な臨床ポイントを示しており、大変参考になるものと思われる。さらに、本書は、臨床現場で観察記録してきた貴重な動作の解説に関して明解なイラストを多用しているため理解しやすく、疾患に対する基本的で実践的な学習を行い、臨床動作分析手法を習熟できる教科書として注目され、極めて多くの示唆を与えてくれるものである。

●A5 判 396 頁

定価 5,460 円(本体 5,200 円+税)

2005 年 文光堂・刊